

## 第1回鶴岡市総合計画審議会 会議録

○日時 平成25年6月24日(月) 13:30~16:00

○会場 グランド・エル・サン クリスタルホール

○出席者 鶴岡市総合計画審議会委員等 29名  
鶴岡市総合計画審議会幹事等 25名 幹事以外 5名

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 諮問
- 4 協議

○会長 それでは暫時の間、議長を務めさせていただきます。着座のまま進行させていただくことをお許しいただきたいと思います。

本日は2つの協議題がございますが、進め方としては、はじめに基本計画の中間見直しの進め方について協議を行い、その後、委員の皆さま方からそれぞれのお立場でご意見をいただければ幸いと思っております。

先程、冒頭に司会の方からも話がありましたが、本日の会議は午後4時を終了の目途したいと思いますので、委員の皆さま方には進行にご協力をいただくとともに、十分な審議を行うために多くの方々からご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

それでは、日程に従いまして進行させていただきたいと思っております。

まず最初に、1番として「鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について」、事務局より説明をお願いいたします。

### ( 事務局説明 )

○会長 ありがとうございます。ただいま事務局から「鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について」、説明をいただきましたが、ただいまの説明に対して委員の方々、何かご質問はございませんか。

それでは質問がないようですので、次の(2)「鶴岡市の現状と課題について」、引き続

き事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

( 事 務 局 説 明 )

○会長 どうもありがとうございました。ただいま鶴岡市の現状について、資料2・資料3をご説明いただきました。

冒頭でお願いをいたしました。本日の審議会は多くの委員の方々からご意見をいただきたいと考えております。それぞれの分野の方々の意見を聞く前に今の二つの説明について、何かご質問はございませんでしょうか。

私から少し質問させていただきますが、最近よく大都市に住んでいる定年を迎えた人で、またふるさとに帰ってみたいという意見を言う方が多いのですが、そういう潜在的な転入を希望する人の調査などを行ったことはありますか。

というのは、来たいという人が来られないのは大きな問題だろうということを感じているものですから伺いました。調べていなかったらそれで結構なのですが、何か調べたことはありますか。

○商工観光部長 商工観光部の佐藤と申します。

今、会長の方からお話ありましたが、基本的には私どもの方では主に高校生の就職に関する統計は細かい数字まで持っているのですが、一旦高校を卒業して、例えば首都圏、それから隣県の新潟や仙台等に進学をされた方、この方々が大学を卒業した後に地元就職をするといったような、その辺の調査は市としては行ってはおりません。

ただ、庄内総合支庁の方で雇用対策連絡協議会という組織を作っております、U・I・Jターンの働きかけや調査などをやっておりますので、そちらの方では数字、概要は把握しているかと思いますが、今日はこの場に資料を持ってきておりませんので、申し訳ございません。

○会長 ありがとうございます。他に何かご質問はございませんか。無ければ、これからそれぞれの委員の方からご意見をいただきたいと思えます。

冒頭にお話しましたように、今日は見直しの会議でございますので、今後5年間を見通して、鶴岡市として力を入れていくべき施策は何か、それからまた、具体的にどういう施策をやっていけばいいかということをご委員の方々からご意見を出していただきたいと思えます。これは後でまた市の方の専門部会ですとか、色々なところで検討することになるかと思えます。ここからは全般にわたり自由に発言をしていただきたいと思えますが、何かご意見のある方はございますか。

○小野木 覺委員 出羽商工会の小野木でございます。

子育ての問題であります。このデータを見ますと17年度はぐっと下がり、23年度は、

今なんとか持ち直しながらも徐々に下がっています。これは全国的な傾向であります。フランスのようにもう少し、鶴岡市だけではできないのだろうと思うのですが、子育て支援というものをどう考えておられるのか。

それから、婚活などを各商工会、あるいは商工会議所や行政の皆さんからも協力をいただきながらやっておりますが、なかなか婚活をしても経費がかかった割に結婚にこぎつける数が少ない。この内容をそれぞれ聞いてみますと、先行き不安だというのが大半でありました。先行き不安ということはどういうことかということ、子どもを生んでも経費がかかり過ぎるからという単純な話もされました。

確かに言われてみればそうなのかもしれませんが、今、高校まで授業料がかからなくなったということではありますが、待機児童ですとか、生まれたばかりの子どもを育てるのが母親なのか、あるいは姑さんなのかということ、核家族になったために生んだ親しか育てることができない。そうすると就職を一時停止、あるいは会社を辞めざるを得ないという状況にあるので、極端な話が生みっぱなしともされるような、そんな対策を講じたらいかがなものか。子どもを預かる幼稚園前の保育所等が完全に整備されていれば、お嫁さんも安心して生めるのではないかと、そんな思いをしております。おそらく、ここの委員の皆さんはそう思っているのだろうと思いますが、なかなか別のものには経費がかかるけれども、女性待遇という語弊があるのかもしれませんが、是非、安心して子どもを生めるような施策を講じてもらいたいと思います。

そういった施策をしたところに地方交付税を多くいただけるような、そういう国の制度にしないと、自分さえ良ければいい、元気な家庭であれば子どもが生める、元気でなければ生めない、こういうのがあるように聞いております。是非、そういったものを10年間の政策の中で取り組んでいただければ、もっといい子育てができる地域になっていくのではないかと考えております。

○会長 ありがとうございます。今、重要な視点をご指摘いただいたと思います。

今日は皆さん方からいろいろなご意見をいただいて、それを事務局の方でまとめるという形式で進めていきたいと思っておりますので、それぞれのご質問にすべて回答するというわけにはいきませんのでご了解いただきたいと思います。

それでは、他に何かご意見はございますか。

無ければ、先程お話しましたように、全員からご意見をいただくために、こちらの方からご指名させていただいてご意見をいただきたいと思います。

ご意見については端的にご披露していただければ、こちらの方としては全員に回るための時間配分ができますので、その点をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは最初に、地域審議会のそれぞれの代表の方々からそれぞれの地域で何か問題になっているものはないかということで、こちらの奥井委員から順番にご発言をいただければと思います。

○奥井 厚委員 資料1の中間見直しについての中で、省エネルギーの施策の推進ということで出されています。そこでは、中身は分かりませんが、当温海地区の場合、バイオマスエネルギーの火力発電が実施されるのではないかとということで、2・3年前にそういった話題になりました。

しかし、やはり課題があって頓挫しているようなところもあります。中山間地域、特に温海・朝日等において、農林水産業に大きな推進ができるのではないかとことを考えていたわけですが、この辺の考え方がどうなのかということが1点です。

それから日沿道ですが、今日東道が事業化になっていますが、当温海審議会でもサービスエリアの設置をお願いしたいということでございます。山形県にそういうところが何ヶ所かあり、今日東道の中では遊佐の話が少し出ているわけですが、山形県の県境でもあり、温海にも設置をお願いできないかという話が出ています。事業が進んでいきますとサービスエリアが宙に浮いてしまいますので、今、早急にこの辺の課題や、設置できないかということの話をしながら、市の方からもご指導をいただければと思っています。

それから3点目としては、空き家対策に、先程言っていました定年者のPRをしたかどうかという話が温海審議会の中でも出ました。今、温海温泉に1件、そういう方が住むことになったという報告を受けています。というのは、温海は温泉もあり、店もあり、医者もあるので、住んでいいところだということをPRしながら、高齢者に安心して生活できる地域を提供していくのもひとつの方法ではないかと考えていますので、市としても空き家対策にもっと積極的にPRした方がよいと思っています。以上です。

○会長 どうもありがとうございました。それでは次に佐藤委員お願いします。

○佐藤芳彌委員 朝日地域審議会の佐藤でございます。

先程、鶴岡市の人口を中心に現状の説明をいただいたわけですが、本当に厳しい状況だと感じております。特に、隣に温海がありますが、温海と朝日の少子化による影響、厳しい経済状況による影響は本当に大きいですし、そうした現状の中でどうした形で地域のコミュニティを大事にしながら、築きながら、朝日の地で生活していくか、そういった方向でしっかりと地域の人達の意見を聞きながらやっていかなければならないと、今、説明を聞きながら思ったところであります。地域審議会の中でもいろいろな課題や、それに向けた対策ということで進めております。

朝日地域はほとんどが森林ということで、その森林をどう活かすかということでもありますし、また、活かすためにはそこに経済が伴わないと、そこに人がいてコミュニティがあってでないと、その森林を守っていけない。その経済をどう確保していくか、また、生活の中で課題は共生と言いながらも、猿・熊の被害で人間が追いやられている現状もありますし、また、ずっと続く大雪との関連で厳しい状況にあります。そういった中で頑張っていきたいと思っています。

鶴岡市の基本計画は5年が経過したわけですが、これからの方向付けの中で、ひとつ、しっ

かりと総括をして、そこから5年の方向性をしっかり作っていかねばならないのではないかと思います。

おそらく基本的な方向性とか、今まで歩んできたのは間違いなかったと思いますし、計画は計画ですが、それをいかに実行するか、それを実現する仕組みをどう作るかというのがこれからの課題ではないかと思います。

そうした中で、冒頭に市長の挨拶がありました。地域・市民・行政が連携を取りながら、という大事な発言がありました。そして、今年度から地域担当制ということで歩み始めたわけですが、その辺の今の状況、そしてこれから具体的にどのような形で進めていくかを伺えればと思います。

先程、財政の中で説明がありましたが、自助努力、鶴岡市だけではどうにもならない部分、地方交付税、国の絡み、県の支出金の絡みが、鶴岡市の財政の半分以上を占めております。そうしたことを考えますと、国の状況では地方交付税の見直しというのも論じているようでもありますし、県のあり方など、市長もおそらく中央に行って肌で感じているところもあると思いますので、その辺も情報もお聞きできればと思います。以上です。

○会長 今のご発言の中でいろんな施策の評価ということは非常に重要なことだと思いますが、これについては今日配付している資料に評価調書というのがございますので、後でそれを見ていただいて、どういうところが問題点があるかというのもまたご指摘いただければ幸いです。

それでは次に、榊引地域の渡部委員、よろしくお願いします。

○渡部俊美委員 榊引の渡部です。

私も審議会は代わったばかりですので、よく中身も分かっておりません。ただ、この間第1回目の榊引地域審議会を開きましたが、その中で一番課題になったのは、私の方は山手なものですから、猿や熊というものに対して被害が大変大きくなっているという事でした。猟友会の人達が不足しているので、増やすということになると、年間個人の負担が大きいということですので、これをなんとか市の方で猟友会をもっと大きくして、経費もある程度補助してもらって、そして駆除していくという方向性は考えられないものかという話題は大きく出ました。

これからまた勉強して、第2回目の会議にも意見をまとめていきたいと思いますが、今回はこれでお願ひします。

○会長 ただいまのご意見は要望として承らせていただきます。

それでは次に、羽黒地域について、金野委員、お願いします。

○金野信勇委員 羽黒の金野です。

私もこういう会議には初めての参加になりますが、羽黒審議会でこれから取り組んでいく

こと、あるいはこれから考えていかなければならないことということで少しお話しします。

地域協働のまちづくり、あるいは地域協働観光のまち羽黒という形で、今、取り組んでいるわけですが、羽黒にはどこの地域にも資源というのがあるわけです。本当に庄内にはいろいろな形で資源がある。例えば羽黒には月山、羽黒山、あるいは映画村、宿坊、中山間地、松ヶ岡というのがいっぱいある。ただ、その資源がある、だから来てくださいと言って本当に観光客が来るのだろうか、そこが一番考えていかなければならないところではないかと思っております。

いくらいいものを作っても、いくらいいものを宣伝しても、そんなに人が集まるものではない。羽黒の場合だと10年間で150万人から110万人と、観光客が40万人くらい減っております。やはり私も観光まちづくりということを考えた場合、資源だけではなく、これからその町に住みたい、住んでみたい、そういった町になっていかないと人数も増えないし観光客も増えない。

そういう意味では、住みたい町というものをどのように作っていくか。あるいはそこに行ってみたい、観光の場所としてだけでなく、いろいろな形でそこに住んでみたい、そういうもの、そういった資源をこれから作っていかなければ、人も集まらないし、観光の数も増えないのではないかと思うと、住みたいまちづくり、足を運んでみたいまちづくりとはどういうまちづくりをしたらいいのだろう。ただ見るだけではなく、そこに行こうという経験をした、それが本当に素晴らしかった、そんなまちづくりをするにはどうしたらいいのだろう。

まだ解決はしていないけれども、そんな形で取り組んでみたいと思っております。以上です。

○会長 どうもありがとうございました。今お話にあった、住んでみたいまちづくりというのは鶴岡市全体にも言えることだと思います。それでは次に、小野木さんは何か追加ございますか。今度は藤島地域で。

○小野木 覚委員 これは今、金野先生がおっしゃったとおりだと思います。追加したいのは、藤島の審議会では高校合併の話が出ております。その中でどのような合併シナリオを作るのか。私もよくわからないのですが、教育委員会の方にみんな丸投げみたいな話を聞いたりするので、これはある程度、その地域の役場にお話をちゃんとしていただかないと。

山大の顧問会議でこの話をしました。というのは、山添高校が鶴南と統廃合して分校となりました。これも鶴南の方々からすれば、非常に不愉快だろうと思うし、山添高校からすれば良かったと思っているだろうし、進学校と普通校の合併なので、それぞれの立場は違うと思うのです。そういったことを平気でやられると、その地域がうまくいかないのではないかと思います。

特に、山大の農学部が鶴岡にありますので、どうしても庄内農高は残してもらいたいという思いがあります。山形県には置賜高校と庄内農高しかなくなるわけです。それで、加茂水の加工科と6次化産業の農業の加工であれば一緒になってもいいのかなという思いやら、い

ろんなことを思うのですが、どうも知らないところでものを決めていくということが、本当に地域の意見を聞いているのかという思いをしております。是非、高校の合併については、皆さんからもいろんな意見の中でいいまとめ方をしてもらいたいと思っております。

特に、藤島というのは産業らしきものがない、果樹にしても山添からみれば大したことはなく、農業の本当の基本的な米づくり以外に観光資源はないわけです。そういったことで、先程地域別観光数を説明いただきました。むしろ、鶴岡のベッドタウンが藤島みたいなものですから、あまり要求はしませんが、是非、金野先生がおっしゃるとおり、住みよいまちづくりに専念してもらいたいと思っております。以上です。

○会長 ありがとうございます。今もお話がありましたが、高校の合併ですとか、そういった教育の問題も鶴岡市の総合計画においては将来的に重要な要素だろうと思います。

それでは続きまして、渡邊委員にお願いします。渡邊さんは青年会議所です。若い視点で何かご意見をいただければと思います。

○渡邊孝之委員 鶴岡青年会議所の渡邊でございます。

私もこの資料を見て一番驚いたのが人口の比率でした。青年会議所にしましても、今、全国的に本当に会員数が減少しております。鶴岡青年会議所においても、今の 38 歳・39 歳の世代が 40 歳で卒業するわけなのですが、その世代が 40 歳過ぎになってしまうと、かなりの会員数の減少となってしまうことが、青年会議所の中でも一番の問題という感じでいわれております。

普段の生活にみても、地域の消防団活動においてもサラリーマン比率が増えているということもこの資料にありましたが、訓練においてもなかなか人数が集まらない、準備するにも人数が少ないと思うようにいかない、そして火事の現場に行くにしても、車の制限等々があつて思うようにいかないということを実感しております。

コミュニティにおきましても、私は羽黒町なのですが、地域の行事においても参加者が、若者がなかなか出てこない。いつになっても卒業ができず、自分の子どもが大きくなってようやく抜けられるといった感じで、なかなかそういう盛り上がりには欠けているのではないかと普段から実感しております。

そして、観光に関しましては、羽黒の場合だと羽黒山や月山などがあるわけなのですが、昔は団体客が多かったのですが、近年は個人客の方の増加がみられます。周りの人の話を聞きますと、観光の体質も以前とはかなり変わってきたという感じで言われております。

それに伴い、観光といいますと観光ガイドという組織がありますが、その観光ガイドの年齢も高齢化してきています。例えば月山登山するにしても 70・80 歳になってベテランのガイドが山に登るのは大変だということで「若者、次はお前ら頑張れよ。」と言っても、サラリーマン化している世代なので、なかなかそういう後継者を募るにしても厳しい現状かなと思います。以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは続いて、婦人団体を代表して何かご意見を齋藤委員、お願いします。

○齋藤春子委員 婦人団体の齋藤でございます。

前にいただいた大変細かい、どこを見ても減少のデータを見ましてがっかりしましたが、これが私達の基本なのだということを考えて進まなければと思います。

私達の地域も地域審議会でもお話したのですが、里山の山に係わった人達がみんな集まって、もっと豊かな山をもとにして暮らしていくにはどうしたらいいか、ということをお話合っています。

それから木を使った、今言われている電気でない薪を使ったストーブの普及、このグループも月に1回と限定せず、時々集まってやっております。料理屋で釜飯を炊いて新しい試みをしたい、口の悪い齋藤春子に食べさせた方がいいという思し召しがあつて行きました。そのように変わってきております。

おかげで私はいろいろな人、羽黒の人や宮司、三瀬に住んでみたいという人にゆっくり話をしようと言われて何回かお話をしております。映画の渡部さんともすっかり仲良くなり、いろいろな話ができるようになりました。地域が動いてきています。動かすのは行政かもしれませんが、一般の住民が動かなかつたら絶対に改革はできないと思います。

うちの方の若手が昨年1年間婚活をやり、今度は写真だと言いました。私、「何言う。」  
「どうして1年間でやめるの。」と叱りました。「1組・2組決まったから成功ではない、ダメだったらもっといい方法がないか考えて進め。」と言いました。そういう声が随分広がってきております。よその地域から三瀬は線香花火だぞというお叱りも受けまして、線香花火でないようにするにはどうしたらいいか考えていかなければダメだよねという話をしています。

山王町があれだけ動いて変わり、映画館もできました。私は、それは住民の力だったのではないかと思います。こういうことを大事にしながら進んでいく、人と人との繋がりをみたいなものが全国的にも広がってきております。私は、鶴岡も申し分なく動いてきていると思います。ここで行政にお願いしたいのは、そういうデータや例が随分ありますが、そういうことを大事にして、よその地域にも新聞やテレビの報道だけではなく、膝を交えて何が困った、どういう解決があつたという生の声をぶつけ合う住民の会がほしいと思います。そこに行政が入り込んで指導してくだされば、もっといい道が開けるのではないかと思いますので、その辺のところを大事にしながら進めてほしいと思います。

「人口減少でも、年寄りばかり増えて。」と、毎日言われます。でも、悲観はしません。みんながやればどこかに明るい兆しが出てくるのではないかと、それは災害に遭った地域をみても分かります。最初にデータを見たときに「なんだこれ、いいこと何もない。」と、がくつとききました。でも、若い人達も、私みたいな年寄りも巻き込んで話に乗ってくれます。八森で孟宗を食べながら随分話が弾んで、初めての人なのに随分いろんな話がありましたし、いつの間にか何人も集まって「私のところではこういうことができたぞ。あなたの方はまだ生

ぬるいことをやっているぞ。」といった話が飛び交います。どうぞそういう声を聞いてください。そして広げてください。婚活もあちこちで動いています。「1年や2年動いて何が成功だ。」と言ってこの間叱りました。「また怒られた。」と言われましたが、そういったことで、行政からは引っ張って、皆さんにチャンスを与えて、そういう機会を作ってほしいと思います。以上でございます。

○会長 どうもありがとうございました。今、非常に基本的なお話があったと思います。要するに、今、地域が動いているということを行政側が感じ取っているかというご意見だったろうと思います。是非とも計画等を作成するにあたりましては、行政の事務局の方で地域がどんなことを今やっているか、動いているかということに触覚を磨いておいていただくようお願いしたいと思います。齋藤委員、ありがとうございました。

それでは続きまして、本間委員にお願いしたいと思います。

あと1時間しか時間がありませんので、大変恐縮ですが、発言は3分以内で終わるようにお願いしたいと思います。

○本間仁一委員 3分以内でなんとか努めます。自治振興会連絡協議会の本間と申します。

1つ目は地域コミュニティの話でございますが、今は地域コミュニティの活性化に最も期待しております。基本方針が策定され、今年度から推進体制が動き出したばかりでありますので、今後しばらくは推移を注視していくべきだろうと考えております。

2点目は、ただいまもお話ありましたが、結婚に向けた活動への支援についてです。現在の未婚者の増加というのは極めて深刻な状況にあります。各地で婚活事業を開催または検討しているようでございますが、これも先程結婚後の子育ての問題、不安等も出されていましたが、自治振連ではメンバーである自治会や自治振興会でも個別に開催を検討している団体が数団体あったことから、自治振連としてまとまって1ヶ所で開催すれば、集まってくれる未婚者の募集も比較的容易なのかなと思います。現在、今年度中に実施する方向で検討を進めております。

婚活を開催しても、恥ずかしさからか地元の方が敬遠する傾向にあることから、広範囲の組織で開催し、最初は抵抗があっても次第にそれが浸透して当たり前の行事になり、昔当たり前だった世話好きのじっちゃん、ばっちゃんの紹介で結ばれていたような状況になれば嬉しいと考えております。市からもいづれアドバイスをいただくこともあるかと考えております。

3点目は高齢者の支援体制の整備についてですが、一人暮らしの高齢者が増えている状況にあるため、地域でできることは自分達住民が動き、お互いに助け合っていくべきだろうと考えております。既に動き出しているところもあり、名称はいろいろあるものと思いますが、すべての地域の言ってみれば隣組単位ごとに高齢者を見守る福祉員制度のようなものを設けるべきではないかと考えております。

仕組みというのは、隣組内の一人暮らしの高齢者家庭や、高齢者ではありませんが一人暮

らし家庭の体調の不良者という方もおりますので、福祉員の隣組内の気配り・目配りが主な役目になろうかと思えます。異常者を確認しますと、その地域の自治会や児童民生委員に連絡をとって、連絡を受けた自治会等では救急車の手配等の対応や、これもいろいろな呼び方もあるかと思えますが、備えてある防災の福祉世帯表のようなものから緊急時の連絡先にも知らせることにしていればいいのかなと思っております。

最後に、空き家の有効利用についてです。鶴岡市には24年度で空き家が2,273戸あると公表されております。ランク別に5段階に分けられて、Aランクの134戸は修理の必要がほとんどいないという状況にあるようです。Bランクの695戸というのは多少修理をすれば再利用可能といわれ、その合計は829戸という数字に挙がっているようでございます。鶴岡の人口をこれ以上減らさない、または増やしていくため、この空き家を再利用して県外からの移住者等を受け入れていくために、市として県外に積極的にPRしていくべきではないかと思っております。勿論、働く場の問題も当然出てくるわけでございますが、地方で暮らしたいという方もいるのではないかと考えております。

今年設立された「つるおかランド・バンク」の中にはこれに該当する空き家バンク事業もありますが、自然豊かで災害が比較的少ない鶴岡市、そして市となれば信用度も高いわけでございますので、前面に出て活動してPRすることは効果も大きいものと思っております。市が前面に出ることは問題もあるのかなとも思っておりますが、私はそのように考えております。以上でございます。

○会長 ありがとうございます。1分ほどオーバーしましたが、いろいろ思いが大きいと思えますので、大変な失礼なことを最初に言ってしまいました。

それでは引き続きまして、町内会を代表して山田委員にお願いします。

○山田 登委員 鶴岡市町内会連合会の会長を仰せつかっております山田登と申します。よろしくお願いたします。

まちづくり、町内会の運営という視点からお話申し上げたいと思えますが、住みよいまちづくりをしていくには、町内会だけではうまくいきません。いろいろな組織・団体があるわけでございますが、そういう組織と連携を図りながら、共通理解をしながら日々の生活を高めていくようにしていかなければならないと考えております。

一生懸命やっていたのは消防団、なかなか消防団のなり手がいないのですが、大変ありがたく思っております。一例を挙げますと、桜新町には消防団の組織はないのですが、前からの町内と一緒にやっただいて、何かあったときは逸早く駆けつけていただけるようお願いしております。

交通安全についても桜新町一つでなく、複数の町内で交通安全の組織を立ち上げております。そういったところとの協力関係、町内会をうまく運営するには主団体と連携を図っていくことが大事なのではないかと思えます。

また、地域の底力を発揮できるようにしていく。いざ何かあったときに地域住民がお互い

に助け合い、情報伝達もうまくいって、スムーズに問題が解決できるようにしていきたいと考えております。そうするためには、常々どういった考え方で地域の方々と会議を持ち、日々の活動を工夫していけばいいかということを考えていかなければならないのではないかと思います。これも各町内で様々な活動をやっていると思います。成功された事例をお互いに聞き合いながら勉強を積み重ねて、住みよいまちづくりに繋げていく、そういった形にしたものだと考えております。

最近は核家族が進んできているということで、一人暮らしは高齢者だけではなく、若い人でも一人暮らしの方がかなりいます。また、そういった人の日々の体の調子というのもお天気と同じように変化しており、隣近所の人助けを借りなければならないということもあるようでございます。夫婦共働きで日々健康であればいいのですが、片方が具合悪くなったといったときに、家族の中だけではうまくいかない場合も、逸早く近隣の人達の手助けができるような、そういう体制を作っていきたいということも考えております。

情報交換をしてみますと、民生委員の人達がやっているところもありますし、民生委員だけに負担をかけてはいけないということで、社会福祉協力員という名称で町内に役員を増やしているところもある。また防災連絡員ということで、お年寄りの方がどういう状態であるかということ調査しながら、防災連絡員の方が、いざ何かあったときに逸早くその家を訪問し、どうしたらいいかという相談に乗るといった体制を作っている町もあると聞いております。

そういったことで、町内の中に一人一役とまではいかなくとも、ある程度役割分担を明確にして、隣近所で仲良くしながらまちづくりをしていくというような、そういう組織づくりも大事なのではないかと考えております。是非、そういったことをやっていきたいものだと思いますので、よろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。今まで基本的には住みたい町を作るか、住みやすい町を作るかということでいろいろご意見をいただきましたが、今の山田委員のご意見で、それには連携が必要だということを感じたところであります。

今まで市民の方々の代表の方からご意見をいただきました。これからそれぞれの団体の方のご意見をいただきたいと思っております。皆さんの意見を聞くために、大変恐縮ですが、3分以内でお話をさせていただくよう、まずは体育協会の稲泉委員、お願いします。

○稲泉眞彦委員 3分は難しいですが努力します。

3点ありますので、骨子だけ申し上げます。

今年度から鶴岡市体育協会、正しくは「NPO法人 鶴岡市体育協会」であります。鶴岡市の13体育施設、分かりやすく言えば旧市内のほぼ全部の体育施設と言っていいかもしれませんが、その管理運営を任せていただいております。

それに係わって、雇用条件がどのようになっているかということで、ハローワークに私も足を運んでいろいろお話を聞きました。大変厳しいものがあって、特に若い人達の中か

ら将来をかけて働くという仕事が本当にあるのだろうか、倍率はそこそこあっても、本当にそういう意味では厳しいと思います。同時に私どもも若い人達に魅力ある仕事にするために職員を採用しなければならないし、同時に、施設の管理の窓口には60歳を過ぎた人を雇用しましたので、そういう形で実際に採用の面接をさせていただきました。結果、多くの応募者があって、大変いい若者を採用することができました。既に2ヶ月以上働いているわけですが、若者らしく意欲もあり、その条件の中で働けるということを我々としても大変嬉しく思っています。

さて、今回の計画に取り組むにあたって、やはり総花的にやるというよりは、市の行政として重点的にやることを絞ってお金をかけていってはどうか。企業の誘致であれ大変難しいことですが、あるいは企業の育成だとか、あるいは例えば先程山王町の土曜市の話が出ましたが、ああいったところでなんとか生きようとしている若者達がいるので、そういった若者達の育成に努めていく、そんなことかなと思います。

もう1つは、少子化人口減少、それから子育て環境、婚活といった話がありましたが、この辺に知恵を絞っていくことかと思えます。私自身高校の教員でありましたが、今60歳、あるいはそれを超えて定年を迎えているわけです。知恵はタダで出ると言う語弊がありますが、この人達の知恵も情報ももう少し活かして、皆さんで出していかなければいけないのではないかと思います。

そうやって見ていったときに、前回私どもの地域審議会でも30年後の人口減少率、確か鶴岡市は68.何パーセント、70%を超えるところは庄内では三川が挙がっておりましたが、あとは全部内陸の方の山形・米沢・東根・天童・谷地・山辺といったところが挙がっていました。この差は一体何なのかということ謙虚にみていくと、やはり企業の誘致、あるいは育成、条件の良さといったようなものがあり、その辺を市としても本気で考える必要があると思います。勿論今までも考えてきているでしょうが、その部分は非常に大事で、企業の問題と少子化に歯止めをかけ、子どもの数を増やしていくという取り組みにお金をかける。ただし、かければどこかは回らないでしょうから、それは我慢しなければならない、そういう現状までできているのではないかと思います。

もう1つ、若者が中央に出て行くという話がありました。私も教育に係わって昭和40年からこの地で働きましたが、パーセンテージで言えば、過去はもっと率で言うと出て行った者の数が多かった。ただ、その頃の若者達はどうなっているか。たまたま一昨日、65歳の卒業生の同級会に呼ばれました。それから1週間前に63歳の教え子の同級会に呼ばれました。この人達に会ってみると、今もいずれも働いている人が圧倒的に多い。当然、定年を迎えています。技術者として非常に高いレベルの、例えば一級建築士、一級施工管理技士といったような高いレベルの資格を持っているがために、一旦辞めてもまた再雇用というか、本人はもういいといっても是非残ってくれと言われる。

企業から見ると、下の方の技術者が足りないという状況に追い込まれている。技術はやはり中央の方が正直高いわけで、若者達がかつては中央に出て、10年くらいすると多くがこちらに戻ってきて、私がみているところは建設会社が多いわけですが、こちらの企業でもって

地域の産業を支えるといった傾向があった。これは工業高校に限らず、多くの高等学校がかつてはそういう形だったのだと思います。

さて、私は10年前に教育の世界を去りましたが、その頃、辞める直前はどうだったかというと、働きたくても地元で職場がないからやむを得ず出て行くという状況が圧倒的に多かった。そして、帰ろうとしても帰れないという現状がある。それから適当な仕事がないから大学に行くというのめかなり多かった。大学進学率はちょうど10年くらい前に50%くらいになっていましたから、景気が良ければもっとももっといったのだろうと思いますが、今の景気の中では親が大学に送れないという状況があるかと思っています。一旦、大学を出た子ども達が帰ろうとして相談に来ますが、相談にも乗ってやれない悔しさを味わいました。

暗い話ばかりでしたが、最後にもう1つだけ話をさせていただきます。我々体育協会として、今取り組もうとしていることがあります。先般のロンドンオリンピックのときに我がふるさとの選手は一人もいませんでした。非常に寂しい思いをしたし、悔しい思いもした。けれどもあのときも、皆さん名前もお分かりかとは思いますが、敢えて名前を挙げませんが、中学3年生で全国の中学校大会で2人が優勝しました。半端でない記録ですぐオリンピックの強化委員長が飛んできて、あと2秒なんとかなればロンドンに行けると言われました。残念ながら、そこまではいきませんでした。その若者達は今、頑張っています。その他にもそういう若者達があります。体育協会としては金銭的な面も含めて、なんとか新たな支援をして、いい若者を育てたいし、同時にその若者達が帰って来られるような環境を作りたいものだと思います。

昨年、市長にもこの件に関してはお願いしましたが、スポーツに限らず、文化活動やボランティア活動その他で、高い知識や技術を持った若者が帰ってこられるような、魅力ある市にしていくということ在全市挙げて取り組まないと、今の状況は打開できないのではないかと思います。時間オーバーごめんなさい。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは次に、三浦委員、お願いします。

○三浦 惇委員 観光連盟の三浦でございます。

言うまでもありませんが、観光産業は本当の裾野の広い産地産業といわれております。従いまして、交流人口の増加はあらゆる産業に大きな影響をもたらしますし、また、雇用の拡大にも大きく寄与するのではないかと思います。

そういうことを考えますと、農業・商業・工業と観光の連携をどう高めていくかということが極めて重要だと思っています。幸い、今ユネスコ食文化創造都市ネットワークの選定ということで進められておりますが、これらも食文化の推進ということで、観光に一体となって大きな影響をもたらすのではないかと思います。

また、交通網の整備。これは重要なことでありまして、先程市長からもありましたように、日東道の温海が開通することで非常に増えたと話されましたが、今、日東道が事業着手され

ており、秋田、それから新潟が計画になっていますが、それから羽越新幹線、庄内空港の利活用の交通網の整備を、より一層求めていくのが重要ではないかと思っているところがございます。

さらに、特色ある商品企画ということで、ご存知のように、来年6月15日から山形DCキャンペーンがあります。これらを機会として商品企画、あるいはルートの設定をより一層進めていく必要があるかと思えます。

それから施設整備も極めて重要だと思っています。幸い、加茂水族館が来年オープンしますし、さらに文化会館も、地元だけでなく全国規模の大会の誘致ですとか、あるいは大型イベントを組むなりして活用を図っていただければ大きな影響をもたらすのではないかと思います。

それから最後になりますが、情報の発信について。先程お話ありましたように、現在、団体旅行からグループ・個人旅行の方に変わりつつあります。そういうことから、情勢に合わせた情報をどう発信していくかということが極めて重要で、ウェブサイトなどインターネットの活用も図っていく必要があるのではないかと思います。全体的に観光産業は観光に従事するだけでは成り立ちませんので、全市民を挙げて、産地間の競争が激しい中で、行政と一体となった取り組みをより一層高めていくことができるのではないかと思います。簡単ですが、以上であります。

○会長 どうもありがとうございました。3分を守っていただきましてありがとうございました。それでは、いつも辛口のご意見をいただく秋山委員から何かこれだけはどうしても言いたいということをお話していただけますか。

○秋山周三委員 あまりにあり過ぎて。全国に4062あるといわれている工業団地の中で一番草とごみの少ない鶴岡中央工業団地の秋山でございます。

なぜそんなことをやっているかと言いますと、やはりきれいにしたい。きれいにすれば売却しようとか、移転しようとか、そういうことが止まる可能性があるから私はやっているのです。それをみんなで、あそこにいる四千何百人が1日3分やったらどうなるという話をずっとしているのですが、みんながやることに意味があると思っています。

いろいろな面で、様々な業者をお願いする、もしくは行政をお願いすることばかり慣れてきて、自分達がやれることを自分達でやらなくなってしまう。やらずに文句ばかり垂れているという方があまりにも多過ぎて、自分達がやれるところは自分達でやろうと、草刈りだけではなく、便所掃除だったら別に業者をお願いしなくても自分達でできるでしょうと、そんなことも言っております。

話は違いますが、道路の問題。庄内の自慢、秋田とも新潟とも山形も繋がっていない、全国稀に見るこんな素晴らしい高速道路が繋がりそうになってきて非常に残念な思いをしております。

もう1つはいつも同じですが何回も申し上げます。こちらでも優秀な方がたくさん揃って

いらっしゃいますが、小説の「県庁おもてなし課」というのは市役所の中で評判になっていませんか。最近映画化されるとか、されたという話がありますが、あの中に出てくる、最初の4・50ページに行政の皆さまの考え方と行動と、民間、特に経営者の考え方のその差がものすごくよく出ているのです。そこだけは是非読んでいただきたい。

スピードを上げることと、コスト感覚を持って事に当たる。稲泉先生がおっしゃったように、必要などころに重点的にお金をかける、それをやらないと総花的になって、結局何をやったか分からないような結果になりそうですので、そこを是非お願いいたします。またこれは何回でも角度を変えてどこかで言ってまいります。以上です。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは次に、早坂商工会議所会頭、お願いします。

○早坂 剛委員 私からは雇用関係のことについてだけお話申し上げたいと思います。今、高校生の地元就職をなるべく多く、一人でも多くの学生を地元におきたいということで取り組んでおります。昨年から取り組んでいて、大体今年も600人くらい地元就職がいるのですが、これをなるべくこの地域に残していきたいと、今努力しております。

今こちらから出て行くのは、大学進学と専門学校合わせて年間1,100人くらいいるのです。ですから、この人達をいかに地元に戻すか、これを企業関係の皆さんと努力してまいりたいと考えております。帰ってくる人は2割しかいないようです。ですから、これをなるべく3割・4割にでも増やしていければ、働く場があった上でのことですから、子育てとかも安心してやっていけるのではないかと思います。

それから最後に、前回、この会でも話したと思うのですが、この計画は今度のものが5年先を考えているわけですが、5年先の人口動態がどうなっているか、今までのデータを見れば大体分かると思います。ですから、その予測をもとに、将来、5年先に人口がこのくらいになる、地域においてはこのくらいの人口になりそうだということを明確に出して、そのためにいろんなことを具体的にもっと検討すべきではないかと思います。それを5年先・10年先を是非見据えた答申にしてもらえればありがたいなと思っています。以上です。

○会長 ありがとうございました。要するに今現在の人口しか書いていないけれども、将来、5年後の人口はどのくらいになるかというデータも事務局の方で用意してもらおうと、話が進むということですので、その辺も配慮をお願いできればと思います。

それでは次に、漁業関係、並びに森林関係の方々に伺いたいと思います。

まず最初に、五十嵐委員の方からお願いします。

○五十嵐安哉委員 山形県漁協の五十嵐です。

昨年24年度に県の方から「全国豊かな海づくり大会」という大きな事業を知事の方から決定していただきました。それについて6月13日に県の方で準備委員会を立ち上げたわけなの

ですが、このときに酒田市と鶴岡市が候補地として要望したということで、私も鶴岡市の一市民として、是非とも鶴岡市の方に招致していただけるように運動していただければありがたいと思います。庄内浜活性化のために、1つ協力していただければ。簡単ではありますが、以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、森林関係について、菅原委員、お願いします。

○菅原 勝委員 出羽庄内森林組合の菅原でございます。

森林組合では今、荒廃林を行政と一緒に整備しております。山が荒れると海も荒れると昔から言い伝えがございます。

しかし、去年は戦後最低の材価の値段でございました。しかし、それに負けてはいられないと、国、県、鶴岡市、また、栃木の業者と一緒に、今、バイオマスの発電が着工されようとしております。まだ計画段階ではございますが、もう少しで実地段階に入ります。このように一人ひとりが、自分の組織がどのように前向きにできるかが鶴岡市の今後、将来の発展の鍵を握っていると思われま。どうか、私も含めて、みんなで鶴岡市を、子ども達、また、お年寄りも、鶴岡市の町に住んで良かったと言われるようなところにしていきたいと私は思っておりますので、今後とも1つ、森林組合や山も大事にしてもらいたいと思います。終わります。

○会長 どうも力強いご発言ありがとうございました。

それでは引き続き、医療関係の方に移りたいと思います。鶴岡地区医師会の会長の三原委員、お願いします。

○三原一郎委員 鶴岡地区医師会の三原です。今日初めてこの会に参加させていただいております。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

私の方からは、これからさらに進む超高齢化の社会で、どうやって我々は対応していけばいいのかという話を少しさせていただきたいと思ひます。

統計では2060年まで高齢者人口が増え続けます。2060年では労働人口と高齢者が、ほぼ1:1、要するに、労働者が1.2人で1人の高齢者を支えていくという時代を迎える。50年先ですから、これからどんどんそういう社会に向かっていくということですので、今の常識ではこの社会は多分乗り切れないのではないかと考えられていますし、私もそのように感じています。要するに、高齢者の尊厳を保ちつつ、安心して老後を暮らせる地域づくりが地域に求められているということです。

そういう意味で、国では「地域包括ケア」という概念を出してきていて、それは大体1万人規模、中学校生活圏域内、大体30分で行ける範囲で、医療だけではなく、医療と介護と福祉、生活支援、しかも、それに住宅を付けて整備して包括的に高齢者を支えていくという社

会づくりをしようと考えています。

これは国が掲げていることですので、全国どこの自治体でもそれに向けて今いろいろな活動をしているところですが、その点に関してはなかなか難しい面がたくさんあります。これは住民もそうですが、地区医師会、それに行政も一緒になって取り組んでいかなければいけない大きな課題ですので、その辺りを是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

もう1点、これから増えていく人口は85歳以上なのです。85歳以上というのはどういう人達かという、半分以上は介護保険が必要、70%くらいの方は入院が必要、ほとんどが寝たきりという高齢者です。それから認知症の方が半分以上いる。そういう人達をどうやって地域の中で一緒にみていくかというのは、大きな地域の発想の転換をしないと、そういう社会は乗り切れないのではないかと考えているところですので、それは本当に皆さんが知恵を絞ってやっていかないと、日本は大変な時代になるという危機感を持っていますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、どんどん若い人が減っていくわけですから、全体で考えると労働者は不足してきます。なので、これから高齢者も働かなければいけない、女性も働かなければいけない、そういう時代になるので、労働力の不足をあまり心配することはなくて、今問題になっているのは地域格差ですから、その辺りをうまくやっていけば、むしろ、労働力はこれからいくらかでも必要になる時代になるのではないかと考えています。特に、介護とか医療に関しては、これから介護士や看護師は圧倒的に不足してきますから、その辺りにももっと人材を活用して、活性化していけばいいのではないかと考えているところです。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○会長 ありがとうございます。今、三原先生のお話の中で「地域包括ケア」という言葉が出てきておりましたが、これから中心として「地域包括」ということは考えていかなければならないと思ひます。鶴岡地区医師会は全国でもモデル的なことをやっておりますので、是非、この基本計画の中でもそれを参考にさせていただければよろしいのではないかと考えています。

それでは続きまして、社会福祉協議会を代表して難波委員、お願ひします。

○難波玉記委員 鶴岡市社会福祉協議会の難波と申します。よろしくお願ひします。

市の社会福祉協議会では「お互いさま」ということで、そのことをキャッチフレーズに子どもからお年寄りまで、事業型の福祉活動を展開しています。今、隣の委員の方もおっしゃいましたが、高齢化は当然のことでございますが、私は少子化が重要な問題だと考えております。労働人口の減少、それから生産人口の減少に繋がるわけでございます。したがって、特殊出生率の増加を抜本的に考えて力を出していかなければと思ひます。

今回も皆さんと一緒にこのことについても勉強していかなければならないと考えております。1つ、よろしくお願ひします。

○会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、民生児童委員協議会を代表して竹内委員、お願いします。

○竹内峰子委員 鶴岡市民生児童委員協議会連合会会長竹内と申します。

民生児童委員も今年の11月にはちょうど改選期に入ります。果たして100%うまく交代できるのかどうか頭が痛いところです。

地域ぐるみの子育てや、今大きな声でいわれています高齢化社会の中で、私達民生委員に課されている一番の大きな問題は児童虐待、それから高齢者に対する虐待、それから、一番県の方で頭を痛くしている引きこもりの調査、そういったものに力を入れて活動を広めていただきたいとお話がきております。なかなか民生委員のなり手がなく困っている中で、様々な課題が課せられてきているのが現実ではないかと思っています。

先程、二人の方から福祉協力員の話が出ました。鶴岡市の人口は山形市に次いで二番目で、いろいろなところで福祉協力員制度を設けているわけですが、山形県の中では山形市だけが市長からの委嘱でそういった組織をもって民生委員と一緒に研修をしながら、民生委員の補助として活動しています。他のところの福祉協力員をみると、民生委員を超えた活動をしてトラブル等があったときに、人材も大事ですが、そういう人達に研修の場を与えて、身分としては市長の委嘱で自分達も民生委員を補助するような活動ができるということまでいかないと、なかなか難しいと感じております。

山形市の方ではそういった形で的確に福祉協力員と民生委員が手をつないで、このような課題をクリアしているというお話を聞くと、鶴岡市においても、是非とも全ての地域に福祉協力員制度を設けていただいて、活動を潤滑にやっていただけるような手立てをしていただければ大変助かりますので、その点をよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○会長 ありがとうございます。ただいまのご意見にありましたように、民生委員の制度というもの、山形市にあるものが鶴岡市でどうかというご提案がありましたが、その辺のところは後で検討していただくようにしたいと思います。

それでは次に、教育関係で中目教育委員長、ご提言お願いします。

○中目千之委員 時間もありませんので、1分間で終わります。

先程、学校再編の話が出ましたが、高校は県の教育委員会の方で行って、我々市の教育委員会は小学校・中学校の統廃合という学校再編で、八つのうち現時点では三つの地域で再編されました。しかし、非常に苦勞したし、住民の声を聞き、遺恨が残らないような形でやるということに関して、かなり教育委員会事務局のエネルギーが注がれたということは是非知ってもらいたい。

平成26年から第2期が始まるのですが、五つ残ったのは、難しいから残ったということですよ。残った五つの地域がすんなりと統廃合にいくかどうかは分かりません。それはまちづくりにも直結していますし、愛着もありますので、ここは住民の声を聞きながらやりますが、教育の質を落とさないという観点からも、無くなることは失うことではなくて、これからの

子どもの教育という観点から致し方ないことだということに対する理解もお願いしたいということが1点。

もう1点は、先程から人口問題が出ていました。今日の資料も鶴岡の人口というのは平成24年までの人口ですが、実はここ1年くらいで、国とかいろんなところから向こう30年間の予想人口は出ています。私がよく利用するジェイマップというのは、日本医師会の中の国際医療福祉大学の高橋教授が作ったのですが、向こう30年間の2040年までの予想人口が市町村別に、かつ、5歳間隔で出ています。なおかつ、そこには現状の医療機関数と介護施設の数が出ていますので、何が足りなくなって、何が将来上がるかということが分かるのです。

今、現時点ではダウンロードができない、つまり公にできないという形になっていますが、数ヶ月のうちにはできると思いますので、やはり、ここは将来のことを話す場ですので、鶴岡の人口は将来の予測人口のデータを出してもらわなければディスカッションできないということは皆さん誰でも知っていますので、いろんなところから出ている予測人口を基にしたデータを添付してもらうような形で、これから市役所の事務局の方がしてくれればと思います。

私の記憶が間違いなければ、30年後に最も人口が減るのは秋田県、市町村別では北秋田市でした。全部5歳間隔で、例えば60歳から65歳とか、70歳から75歳と、ずっと全部出るので、ですから、そういったものがだんだん各所から出てきていますので、情報収集して、予想人口をとにかくデータを手に入れた上で、それをもとにディスカッションするという方向で進めていただきたいと思います。

○会長 ありがとうございます。先程の早坂委員と同じようなことでありますので、事務局として、そういうデータの収集もお願いをしたいと思います。

今の中目委員のお話の中で、この基本計画は将来の子どもがどのような町としていいのかということを知ってもらうような、そういう計画にすべきではないかと、今、中目委員のご意見を聞いて感じたところであります。

それでは次に、大変お待たせいたしました、平委員、何かご意見をいただければと思います。

○平 智委員 昨年の6月から鶴岡総合研究所の所長をさせていただいております、山大農学部の平です。

先程来、皆さんのご意見を十分耳をすませて聞かせていただいたつもりです。この総合計画にあたっては企画専門委員会に係わっております。今回はこの見直しにあたって企画専門委員会では重点事項を抽出して、そこを企画専門委員会が担当するというようになっておまして、非常に責任重大であります。複数の委員の方々から重点はしっかり抽出してやるべきでないかというご指摘があったところですが、各委員のご意見を聞いていると、やはり自分が深く係わっておられるところは非常に重要であるというような発言をされるわけで、これを企画専門委員会ですべて公平に交通整理して重点を抽出するというのは非常に困難なこ

とだと思えます。なので、これは是非お願いしたいのですが、皆さんも各専門委員会にも直接、あるいは間接に係わられていると思えますので、その専門委員会の中で各分野ごとに重要性の判断をしていただきたいと思います。

3つくらいに分けるとすれば、これは優先的に施策を展開すべき重要課題であるということ、2つ目は向こう5年間にやり遂げればいだろうというようなこと、3つ目はやる努力はするけれども、いろんなことを総合して考えると努力目標的な扱いにならざるを得ないかもしれないこと。全部重要であるといわれても困るわけですが、この3つくらいの範疇に是非交通整理して分けていただいて、分けていただきたいと思います。

さらに加えて、緊急性を要するのか、あるいは5年先までになんとか辿り着ければいいのか、最近の言葉でいうとロードマップですが、年間計画を含むような計画を併せて考えていただければありがたいと思えます。

企画専門委員会が各専門委員会のことを、勝手にこれが重要だと抽出して、それを計画に上げるというわけにはいかないと思えますので、事務局の方もよく日程を調整していただいて、各専門委員会のご意見を企画専門委員会でまとめて重要度をうまく判定してまとめられるような、そういうご配慮を是非いただきたいと思います。それが1点。

あと、最近の鶴岡を一市民としてみてみますと、これは市長をはじめいろんな関係各位の努力があるからだと思えますが、数ある地方都市の中では非常に積極的にまちづくりに取り組んでいるのではないかと思いますし、周りの人からもそのようにしばしば言われます。その中で、楽しみなものができるのです。

1つは加茂水族館が新築され、クラゲが新しいステージに入る、これは非常に楽しみであります。もう1つ大きなことは文化会館が新築される。これも世界的に有名な建築家の設計のもので、ネットで見ていてもものすごくユニークな感じがして、あの建物そのものを見に来る人がいるのではないかと私は感じています。非常に楽しみなことです。

ただ、物ができることに市民の皆さんがどうしても気を奪われて、そこで何をするか、向こう5年間に何をするか、どういう事をまちづくり・地域づくりでしていけばいいのかというところへの思いが薄れてきているのではないかと思います。そこには鶴岡の暮らしはこうあるべきだとか、鶴岡はこうするべきだというような理念といいますか、大げさに言えば暮らしの哲学というか、そういうものが市民の間で共有されていないと、低成長時代に共通の目標というのなかなか設定できないのではないかと思います。

例えば最近、熊が出て仕方がないわけですが、熊が出たと騒いでいても、おそらく野生動物との共存の問題は解決しないであろうと思えます。里山との係わりを新しい時代の形を取り戻すような市民運動のようなものを展開しない限りは、この傾向というのは増大しても決して収まらないのではないかと思います。

そういうことをやろう、みんなで取り組もうということには基本的な考え方、鶴岡の暮らしぶりについての意識が共有できていないと難しいのではないかと感じます。その辺のところも総合計画の中で検討して、それを分かりやすい形で市民の皆さんに伝えていくというか、相談していく、意見を聞いていく必要があるのではないかと感じています。少し長くなりま

した。以上です。

○会長 ありがとうございます。今お話にありましたように、この総合計画を策定にするにあたっては、企画専門委員会というのがあって、その下に六つの委員会があります。先程からこれは重要だと言われたことをそれぞれの専門委員会で意見を出して、企画専門委員会の方に上がっていくような、そういう流れで今後進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

それでは最後に、副会長の東山委員、お願いします。

○東山昭子委員 具体的な施策についてはいろいろとご提言があり、これから各委員会等での話し合いもなされることだと思いますが、1つ基盤になる部分のところで市民総意、共に支え合っこの町を作り上げていくのだという共通の思いをもう少し育てていきたいものだと思います。お互いを認め合う形で、何を譲って、今は何に取り組むべきかという共通理解を形成できるような、そういう理解の仕方、お互いの認め合いの仕方、そしてお互いに力を貸し合うあり方というのをどのように形成していけるかがあるのだらうと思っております。

先程来お聞きしておりますと、やはり総花的でなく重点的に事を進めるべきだというご意見も何方かございましたが、そうするとき、自分のところを優先して考えていくだけではなく、総体的に考えたときに、今少し我慢してここがうまくいったらこちらもうまくいくはずだという市民各位の相互理解が必要なのではないかと感じております。

私が内陸からこちらにまいりましたときに、なんて物を言わない市民だらうと鶴岡のことを思いましたが、今はあまり強く自分だけを主張し過ぎている部分も出てきているのではないかと思います。むしろ、内陸の我がふるさととなってしまうところではお互いに力を貸し合うという部分での若干の譲り合いができるようになっていないかと懐かしく思ったりしているところでもありますが、6次産業といわれても、お互いの力が貸し合えて初めて大きな力を出し合えるのであって、それぞれの自己主張だけではいけない部分があるのではないかと思います。

特に、新しい文化会館の建設等が進んでおりますが、そういった部分でも良さを認め合いながら、かつ、もっといいものを作るという意欲的なお互いの力の貸し合いを必要とするのではないかと思います。今、市政の全般にそれが大きく合併後8年を経た中で最も大きく力を貸し合って、東北一広くなったこの地域が活かされていく力になり得るのではないかと基本的な部分でそんなふうに思いますし、もう1点言いますと、ここで生きていて良かった、今ここに生きている人がそう思えなくて他の方々を呼び込むことはできないのだらうと思っております。ここ鶴岡では男性、女性、それから高齢者、若者、市民、地域、行政、それぞれが非常に高度な様々なノウハウを持っていると思っておりますが、その高度な部分をお互いに補完し合いながら、いいふるさとを作っていきたいと願っているところであります。以上でございます。

○会長 東山委員、ありがとうございました。今日の審議会の意見を最終的にまとめていただいたようなご意見であって、私としては大変ありがたいと思います。

今日は市議会議員の方々もお出でになっておりますが、市議会議員の方々を代表して野村議長、何か今日の話聞いて。

○野村廣登委員 今日はいろいろご意見を聞かせていただきましてありがとうございました。皆様のご意見を聞きながら、議会は議会なりに一生懸命いい鶴岡市を作るために協議しながらやっていきたいと思えます。今日これだけいっぱいいますので言い足りないことがありますたならば、是非それぞれの議員のところにもご意見等をいただければありがたいと思えます。今日はどうもありがとうございました。

○会長 今日はそれぞれの議員の方々からご意見をいただく時間がないので、大変申し訳ありませんが、もし何かありましたら、委員の方々、議員の方々にも意見を言っていただければ幸いです。

それでは最後に、榎本市長、今日の話聞いてご感想を聞かせていただければありがたいと思えます。

○市長 今日は各委員の皆さまから貴重なご提言をいただいたと思っております。もとより、皆さんからいただいたもの、この地域の中での将来に向けて成長戦略を描かなければダメなのだと思っております。そのためには、ここに若い人達がいきいきと生きていける、そして子ども達の声が聞こえる、そしてまた、あらゆる場面で地域コミュニティがしっかり守られていく、また、高齢者の皆さんに対してもフォローアップを我々ができるような地域にしていければと思っております。

私も直接的に中に入って4年近くなるわけですが、行政というのはどうしても総花的にならざるを得ない、それは市民のニーズにどう応えていくかと各職員が考えたときにそうならざるを得ないところはありますが、それでもどうこの地域を作り上げていくかというのは、私は最終的には市民の皆さんがどういうものを考えて、どうしていきたいか、そして地域がどうあるかということであると思っております。それを行政がしっかりサポートできればと思っております。それを行政がしっかりサポートできればと思っております。それを行政がしっかりサポートできればと思っております。

先程、東山先生からの話のとおり、文化会館については、私は文化会館を使われる、そして文化を志す人達がどういう思いを込めて新しい文化会館を運営していくかにかかっているのだろうと思っております。

遅ればせながら体育施設についても体育協会の皆さんから将来のスポーツ振興も含めて考えていただくために指定管理をお受けいただいたと思っておりますので、是非、各関係機関の中でご尽力いただいている皆さんから貴重なご意見をいただきながら総合計画の後半5年間をしっかりと作り上げてまいりたいと思っておりますので、忌憚のないご意見を今後とも賜

りますこと、そして今日は貴重なご意見をいただきましたことに感謝申し上げまして、一言御礼とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、まだご意見があろうかと思いますが、「その他」に入りたいと思います。事務局で何か「その他」の項目はございますか。

○事務局 事務局からは特にございません。

○石黒慶一会長 それでは一応、この辺で協議は終わりにしたいと思います。皆さん方のご協力によりまして4時の予定の1分前に終わることができそうであります。

これからまだ2回ほど委員会を開催する予定になっておりますが、引き続き、これからご協議を賜りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

それでは、ここで進行を事務局の方にお返しします。

○5 その他

○6 閉会